

# Car Entertainment Magazine

# GENROO

[ゲンロク]

ゲンロク 2022年2月号 (毎月26日発売)  
12月24日発売 No.432 第37巻第2号

2022  
FEB  
No.432  
定価 1100Yen

2

# Lamborghini 2022

## 挑戦するランボルギーニ

[世界限定40台] エッセンサSCV12

[最終進化形の味] ウラカンSTO vs ウラカンEVO vs ウラカンEVO RWD スパイダー

[NA V12最後の咆哮] アヴェンタドールS in オートポリス



ポルシェ特選ショッブ

ポルシェ・ミッションR初試乗!

最新スペシャール: フェラーリ・デイトナSP3



細部に技が宿る

# ザ・大口徑主義

**G** クラスはスポーツテイカつコー  
ジャスな路線に持つていくこ  
とができるし、オフローダーとして  
の資質を際立たせるようなモディフ  
アイもできる。アゲ系、サゲ系、な  
どと例えられる両路線だ。東京世田  
谷に本拠を置き、ハイエンドカーの  
カスタムに定評があるジェミーズが  
つくったのは、その隙間を縫うよう  
な絶妙なコーディネートだった。  
まず目をひくホイールから注目し  
てみたい。いつの時代もサゲ系カス  
タムの定番なのが大口徑だ。今回  
日本で常識的に使う限界値として、  
W463A型Gクラスに取り入れる

例が増えてる24インチを投入した。  
AMG純正鍛造ホイールに比べると  
2インチもアップするだけに、さす  
がに大きさを感ぜさせる。  
日本でこれだけのサイズを許容し、  
安心してその巨体を委ねられるホイ  
ールブランドは決して多くはない。  
そこで頼りになるのがハイパーフォ  
ージドである。かねてより、あらゆ  
る銘柄で多彩なサイズ設定を用意し  
てきた。その最新作として人気を集  
めるHF LMCでは22インチを飛び  
越えて、24インチまでが設定される  
ようになった。そこに目をつけたの  
が、今回のGクラス (G400d)

# Ge3y's Mercedes-Benz G400d

前後バンパーとそれに続くフェンダーをラッ  
ピングで黒く落とし込みことで、オフローダ  
ーっぽさを打ち出した。そのフェンダー内に  
収まるのが大径な24インチというのがいい。



東京・世田谷に本拠を構えるGe3y's (ジェミーズ)。ハイエン  
ドカーを中心に取り扱い、今回のG400dに象徴されるような  
センスと技術にあふれるカスタムには定評がある。



ハイパーフォージドにとって、C7以来の24インチモ  
デルがHF-LMCだ。そのサイズ感によって持ち前のメ  
ッシュデザインを強く訴えかける。今回はフロント  
10.0J、リヤ12.0Jを選んだが、9.0J~12.5Jまでのサ  
イズが揃うために、作り手によっては選択肢が違う。



のコーディネートである。  
フロント10.0J、リヤ12.0J  
サイズで、それぞれ295 / 30、3  
55 / 25というタイヤを組み合わせ  
た。0.5J刻みで細かくオーダー  
できるのは3ピース製法の強みであ  
り、それを快く受け入れるハイパー  
フォージドらしさでもある。このサ  
イズはタイヤを引っ張りすぎるこ  
となく、Gクラスのスクエアなフェン  
ダーに収めている。スポーツカーの  
ように、タイヤを引っ張ってフェン  
ダーを被せるスタイルではないのが  
Gクラスだ。満開に咲く花のような  
メッシュディスクと奥行きのあるリ  
ムが、無骨なフェンダー内にこく自  
然な雰囲気収まっていた。

ボディ側を含めたコーディネート  
も個性豊かだ。ボディカラーは大人  
カジュアルっぽいインジウムグレー  
であり、さらにバンパーやフェンダ  
ー、ルーフなどをラッピングで黒く  
落としている。モールやエンブレム  
類もまた黒基調として、スベアタイ  
ヤカラーの色分けも純正とは違えた。  
さらにはウインドウ類をブラックシ  
ーガラスから、すっきりとしたクリ  
アガラスに変更している。これでス  
クエアな車体の奥行き感を強調させ  
ながら、過度にコワモテっぽくはな  
い親しみやすい雰囲気となった。こ  
れなら小径ホイール&オフロードタ  
イヤを組み合わせても、すんなりと  
溶け込みそうである。  
こんなボディメイクの中で、HF

LMCは見事にキマっていた。イン  
ジウムグレーと同系色にして、より  
深みのあるブラッシュド・アナダイ  
ズド・ブロンズ、あるいはより色調  
を寄せたブラッシュド・アナダイズ  
ド・ライトブロンズ、いずれも調和  
していた。メッシュの裏側に潜むブ  
レーキキャリパーだけ、青系の差し  
色を入れる小技も光る。  
いかにも強くてたくましいスポー  
クを持つホイールではない。むしろ  
10本のツインスポークからなるメッ  
ッシュデザインは繊細さを訴えかける。  
それがこの力強い印象を持つGクラ  
スを支えている。しかもボディカラ  
ーと同系色としたことで、暑苦しい  
ほどの大径感を訴えかけてこないこ  
ろがいい。Gクラス自体の存在感  
に加え、ホイールサイズではけっ  
こ攻めているのに、それを感じさせ  
ないところに、このコーディネート  
の美学があると思える。それでも  
ふと目をやった瞬間に飛び込んでく  
る、深みのあるリム形状には問答無  
用の迫力も感ぜさせる。

こうやって多種多様なコーディネ  
ートを許容するところに、Gクラス  
の魅力がある。それを支えるハイパ  
ーフォージド、ありとあらゆるアイ  
デアを持つてそれを実践するジェミ  
ーズには、これからも期待したい。  
攻めた大径ホイールだけれども、ア  
ウトドア風情を感じさせて、極めつ  
けのクリアガラス。この美学がわか  
る人は通である。